



原 和男 (QR・NTV・FBS)
東京相撲記者倶楽部会友

みんぐひなまつう民放史
題字 中川 順

相撲を伝えて70年、
名横綱との交流と思い出を懐かしむ

私が生まれた大正15年、横須賀市は軍港で、海軍の相撲が盛んだった。連合艦隊が入港する度毎に歓迎回優勝して横綱にもなった。

こども相撲大会が催され、私は毎出来たらなあ」という私の考えに妻も同感だった。



こども相撲で優勝
(小学4年)

◇アナウンサー誕生

昭和22年のことだ。早大の同級生から、「一人で受験するのは心細いからNHKのアナウンサー試験と一緒に受けくれ」と頼まれて気軽に付き合つた。

ところが友人は落ちて、冷やかしおのつりだつた私が合格してしまつた。

NHK高知で勤務していた昭和

27年2月、一通の電報が届いた。
「スモウホウソウ ヤリタケレバ
スグコイブンカホウソウ」。
元NHK職員で文化放送の創立業務をしていた友人からの電報だつた。

生後3か月の長女の傍らで夫婦

柄錦は正攻法の技能派の名人だった。付き合つてみると思いやりのある心の暖かい人柄であることが分かつた。

昭和30年夏、柄錦は14日目に5回目の優勝を決め、千秋楽に新大関、大内山と対戦した。

私は幕内力士土俵入りのあと、大内山に、「突っ張りまくれば、お客様さんが喜ぶよ」と声をかけた。気の弱い大内山は終始突きに突いて稀に見る大相撲となり、粘り抜いた柄錦の捨て身の投げで大歓声の内に勝負がついた。



相撲中継の筆者
(文化放送)

民間放送が経営的に成り立つか、給与はいくらなのかなども確かめないままNHKを辞め、開局前の文化放送に入つた。

その夜の祝宴で、大内山が優勝したような気分で酒を酌み交わした。

後日、栃錦に話すと「原さんがけしかけたのかあ、大内山の気迫は本当にすごかった。でも相撲史に残る大一番だったというなら『ワシも嬉しい』」と笑みを浮べながら応じてくれた。



優勝した栃錦と
出羽海理事長(掌の花)

◆32年、日本テレビ

この板錦が春日野理事長になつたばかりの昭和49年に想像もつかないような大問題が起つた。

長から、NHKと日本テレビを除いた民放3系列が地方の3場所を独占中継する計画を進め、相撲協会の二子山親方（元横綱・初代若乃花）もその窓口として前向きに検討しているという情報を聞かされてビックリ仰天した。

この情報の真偽を確かめるため九州場所の初日、協会理事長室へ

向かった。すると春日野さんが「プロ野球の中継料はどの位か、民放の午後の時間帯の収入はどの位になるのか」等々、矢継ぎ早に質問を浴びせてきた。

春日野さんの傍らで横になつていた二子山さんの耳に入つていて、と思う。慌てた私は後藤君に連絡を取り、「日本テレビも即刻、春日野理事長に申し入れるべきだ」と進言した。「月曜日は役員会があつて重役は誰も出張できないので江守運動部長を連れて行つてほしい」とのこと。

3日目の朝、姪の浜にある春日野部屋に江守部長と共に行った。朝稽古に立ち会つた春日野さんとチヤンコを食べべていると「原さん、何か用事があつて来たんでしょ」と柔らかい声で尋ねられた。

渡りに舟と、民放の中で昭和28年8月に最も早くテレビ開局した日本テレビはすぐに秋場所の中継を始め、その後民放テレビが次々と開局した。

栢若の全盛時代には、NHKを含めたテレビ5局が皆大相撲中継を競い合つた。その末、テレビ朝日が中継から大相撲ダイジェストに変わり、フジが撤退、東京放送

向かった。すると春日野さんが「プロ野球の中継料はどの位か、民放の午後の時間帯の収入はどの位になるのか」等々、矢継ぎ早に質問を浴びせてきた。

春日野さんの傍らで横になつていた二子山さんの耳に入つていて、と思う。慌てた私は後藤君に連絡を取り、「日本テレビも即刻、春日野理事長に申し入れるべきだ」と進言した。「月曜日は役員会があつて重役は誰も出張できないので江守運動部長を連れて行つてほしい」とのこと。

も中止した。日本テレビだけが大相撲中継を昭和41年の初場所まで14年間続けたことを詳しく説明した。春日野さんは「優勝力士を囲んでの番組に何回も出さしてもらった。ゴルフの帰り道が渋滞して放送に遅れそうになつた」等々いろいろな思い出を懐かしそうな笑顔で応じてくれた。

こうした経緯がありながら「原さんはアナウンサーというより相撲放送の責任者だったんだから、日本テレビから正式に申し入れがあつたと受け止めるよ」と言つてくれた。



横綱板錦を迎えて



横綱若乃花をスタジオへ

戦前はラジオ、戦後はテレビを中心とし、相撲中継を続けているNHKを裏切るのと同じだ。国民党が納得するだろうかという反対意見が大半だったという。

そして「一番早く相撲放送をやめたのは日本テレビだと聞かされていたがあれはウソだつたのか？ワシが理事長になつたばかりの春場所の時、大阪の民放の斎藤守慶という取締役が来て『独占放送ご承認をよろしく』と言つたのだ」という。

春日野さんから「全国津々浦々ちゃんと見られるのはNHKしかない」という発言もあって、今まで通りのNHKが6場所中継を続ける結論になつた。これで日本テレビ以外の民放3系列の3場所独占中継という事態は雲散霧消したのもつともこれでNHKとの契約料は大幅のアップになつたとか。

たため、教会員の献金だけでは建築資金が足りないので、それぞれが外部に援助を求めることになつた。



ゴルフ場で板錦と

私がまず献金を頼んだ相手は、佐渡嶽部屋の琴桜（後に横綱）。高校卒の入門時からつきあつておおり、師匠は、日本テレビの相撲解説者の佐渡ヶ嶽親方（元小結琴錦）。



佐渡ヶ嶽親方と 原(左) 共同通信京須記者

て酒を飲むと、この思い出を口癖のように繰り返し、亡くなるまで番付表を送り続けてきた。



自室で琴桜と

双差しの名手「リヤンエの信夫」
といわれた信夫山は海乃山の兄弟
子であり私の親友。新番付で小結
にしか上がりがれなかつた信夫山を尉
めようと会いに行つたことがある。
「小部屋の者に冷たい番付だ」と

「そんなに沢山ではなく、千円でも二千円でも十分ですよ」と私が言うと、「わたしは相撲人としての給料を相撲協会から貰っている（月給制度は、豊山が敬愛する師匠の元双葉山が作った）この謝金は飲んでしまうか何かで、訳も分からぬ内に無くなってしまうと思う。大相撲の魅力を放送しても

らった感謝と合わせて、このお金
を会堂建設に役立たせてほしい。

双差しの名手「リヤンエの信夫」
といわれた信夫山は海乃山の兄弟
子であり私の親友。新番付で小結
にしか上がれなかつた信夫山を慰
めようと会いに行つたことがある。
「小部屋の者に冷たい番付だ」と
嘆くので「自棄になるなよ、今度
勝ち越せば関脇になれるじやない
か」と私は励ました。

信夫山は、「目標を原さんから貰
つた」と気分直しに、おいしいマ
カロニグランタンの店を知つてゐる
から一緒に行こうとの誘いに乗

知性と理性が豊かで気配りの届いた対応だった。相撲道を求める続けた大力士双葉山と同様に理事長になる芽はあつたのだ。

嘆くので「自棄になるなよ、今度勝ち越せば関脇になれるじゃないか」と私は励ました。信夫山は、「目標を原さんから費つた」と気分直しに、おいしいマカロニグラタンの店を知っているから一緒に行こうとの誘いに垂つて新橋へ行つた。

4人目は横綱柏戸。私と同年の星甲の千回出場記念の祝宴の司会

番付問題があつた時、原さんが励ましてくれた。だから信夫闘の感謝と合わせてお礼をしたい」
私の胸に温かい思いがイッパイに広がつた。

する合間を縫つて柏戸にも話をした。すると浴衣姿の懷から大きなガマグチを出し、テーブルの上に全部空けた。硬貨も混じり約5千円あつた。「原さん、今持つてゐる金はこれだけだけど、これでよかつたら全部献金するよ」。



柏戸に単独インタビュー

いくら何でもそんなにはと辞退する
ると、大鵬は「ワシは相撲界を背
負つて立つ責任をどうしたら果た
せるかと何時も考えている。他の
人と同じ額を献金すればいいとい
う訳にはいかない。だから、是非
献金させてほしい」と頼むように
言う。思い上がるつて、いるのではな
く自らの立場を常に自覚して、いる
大鵬ならではの言葉。



ちゃんと用む大體

◇大横綱大鵬の遺志は今も

この献金がきっかけになつたのか、大鵬はそれから福祉施設への大型テレビの献品を始めた。更に発展して、引退が近づいた昭和44年から日赤への血液運搬車・大鵬号（一台時価2百万近い）の献品を始めた。生まれつきの高血圧に悩まされた大鵬ならではの社会奉仕である。



大鵬幸壹

大鵬は終戦間際、樺太から引き揚げての貧困と、相撲の猛稽古の苦しさを耐え忍んだので、色紙には「忍」の字を書いていた。

そして晩年は揮毫を請われると「福壽」と書くようになつた。福は幸福であり福祉でもある。壽は長命、祝う。祈るでもあり、大鵬の願いでもある。お通夜の弔問に行くと大鵬は稽古場の片隅に安らかな寝顔のまま横たわつていた。全力で走り抜けた人生に感謝しているかのように72歳の生涯を終え、眠りに就いたのである。



山形県出身の江戸っ子ともいわれた柏戸とは金ボタンの高校生の時から知り合った仲だ。素晴らしい出足と同じような竹を割つたような明るい柏戸。タニマチの接待酒よりも、身銭を切つて付け人たちをねぎらつて飲むのが好きだった柏戸が懐かしい。

5人目は大鵬。稽古上がりの大鵬にも話した。なぜか大鵬は「柏戸さんはいくら献金した?」と聞く。私は心の中で柏戸に合わせるのかと思いながら、「5千円」と答えた。大鵬は札入れから一万元を取り出し「これだけ献金するよ」今の時価で十万円以上の大大金だ。

大勝はケチだと隙口を言つてゐたが、ケチどころか無駄な金使いを絶対にしない人柄に感嘆するばかりだった。

「巨人・大鵬・卵焼き」と愛された大鵬は40年近くも社会への返札を続け、大鵬号70台、他にも日赤用3台と累計73台、時価に換算して1億4千万円もの奉仕活動をつ

白鵬は、大鵬の優勝32回の大記録を破った時「ワシの相撲のお父さんは大鵬閣、その恩人の大鵬さんには並ぶことが出来た」と語っている。白鵬はやたらと張り手を使

をしたり、懸賞金の袋を右手で高く掲げてガツツポーンズをしたりで勝ちを第一とし、相撲



東京相撲記者クラブ100周年
千代大海、魁皇、白鵬、琴光喜、日馬富士、筆者

文化の美風を知らない土俵態度をとることが問題視されている。

大鵬は戸田（後の羽黒岩）の突き押しに土俵際を右に左にと防戦したが、土俵を割つた。だが攻める戸田の右足の方が勇み足のように蛇の目の砂を蹴つていることが分かつた。この誤審のために大鵬の連勝は45に止まってしまった。

大鵬も、若い頃は軍配の行方を気にすることがかなりあつて、私は「静かに待っていた方がいい」と注意したことがある。ところがこの時には勝負審判を非難しなかつた。

「誤審になるような相撲を取つた自分が悪い」と淡淡と語つて

大鵬が本物の大横綱に成長したことを見た。私は事のように喜んだものである。

双葉山は、「我いまだ木鶴たり得ず」と70連勝が成らなかつた反省をした。大鵬は誤審をとがめるよ

り、横綱らしくない相撲を取つた自らを反省した。白鵬も大先輩の土俵態度を見習つてほしい。

今年2月6日に国技館内で恒例の力士の献血が行われ、71名の若い力士の血液が運搬車によつて運ばれて行つた。大鵬の遺志は今も生き続けている。

私は、文化放送、日本テレビで当し、大相撲の名勝負や力士の生きざまに触れ続けて今に至つている。

反面教師のような力士もいたが、一人一人の努力や人間性に力士から教えられたことが数多く思い出される。

稀勢の里によつて、相撲文化に裏打ちされた横綱相撲が展開されることを願つてゐる。

◇エピソード

日本テレビの大相撲中継には当初から三菱グループがスポンサー

になつていた。番組の構成上コマーシャルに力士が登場するシーンがたびたび挿入された。

それは三役級の力士の工場見学であつた。ある時、三菱重工の航空機名古屋工場の見学に柏戸、北

葉山、大豪の三力士がつきあつた。広い工場の中で注目されたのが、戦後最初の国産旅客機といわれるYS-11が試作段階に入たところ

でモックで作られた旅客機のタラップでの三力士の満足度はこの上

ないものだつた。

この後ヘリで名古屋へ移動ということになり、同乗することになつたが、なぜか私だけが別のヘリにとのこと、最初のヘリは三人の力士とカメラマンで重量オーバーだという、力士との同乗はあきらめざるを得なかつた。

カメラの日本光学の見学では、豊山、豊国の両力士が精密機器の製作に深い興味を見せ、熱心に説明を聞き、カメラや顕微鏡の操作に夢中になるなど、ほほえましいシーンも見られた。



工場見学の大鵬、大天竜

横綱大鵬もこうした工場見学にも登場した。

北九州の三菱化成の工場では完成品を見たいというものの、化学製品を作る工場内は原料を運ぶパイプばかり、パイプばかりで見学の興味は半減したようだつたが、終始にこやかに最後まで見学につきあつてくれたことが深く印象に残つてゐる。

【資料提供】 筆者